

## 教育学部

I	教育の水準	.....	教育 4-2
II	質の向上度	.....	教育 4-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 授業評価アンケートの結果を教員にフィードバックし、教員間での意見交換を行っている。また、学生と教員の懇談会を定期的を実施しており、学生からの要望に応え、教員と日本人学生、留学生が英語で交流する国際コミュニケーションの実践的課外学習の場として「Edu Cafe」を設置するなどの取組を実施している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生の自主的で自律的な学習を促進することを目的として、授業にフィールドワークや実験・実習等の体験重視の方法を取り入れている。
- アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの整合性を図りつつ、体系的な教育課程を編成するとともに、グローバル化への対応として、国際比較、異文化理解に関する科目や英語を使用した授業を整備している。

以上の状況等及び教育学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

### 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）における標準修業年限内の卒業率は76.0%から96.2%の間を推移している。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における卒業生の大学院への進学率は平均36.0%、就職率は平均89.2%となっている。

- 平成 26 年度に実施した卒業生への意見聴取の結果では、全体としての満足度について、肯定的回答の割合は 83.6%となっている。

以上の状況等及び教育学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 国際コミュニケーション能力を高めることを目的とした「Edu Cafe」の設置のほか、高等学校及び教育委員会と連携して高校生に教育学・心理学の魅力を伝える合宿形式の高大連携事業等を実施している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度から平成 26 年度における大学院への進学率は 22%から 50%、就職率は 77.8%から 97.1%の間を推移している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。